

郷土の文化財9

# 三 塚

佐久市三塚遺跡（昭和49年度）緊急発掘調査報告

1975.3

長野県  
佐久市教育委員会

## 序 文

### 人間の生存記録として後世に

佐久市教育委員会

教育長 細 薫 勇 美

三塚地籍を含めまして一帯の埋蔵文化財の包蔵につきましては斯界の遙く認識されるところでした。着々と鼓動する野沢平圃場整備事業が三塚遺跡に及びました。云うまでもなく文化遺産としての埋蔵文化財の価値評価について深い認識に立っておられます東信土地改良事務所のご厚意により、消滅の予想のもとに緊急調査をなし記録に保存することをなし得ました。調査団の構成は顧問に由井茂也氏（県考古学会員）を推戴し、団長に野沢北高校教諭藤沢平治氏（県考古学会員）調査主任に御代田町教育委員会土屋長久氏（県考古学会員）に配するに調査員も多士の学識類いの方々をもって万全の体勢を整え得たことは望外の喜びでした。時あたかも寒気正に凜烈の候ではありましたか文化財調査が単に一部研究者のものでなく真に地域の文化と自然に対する深い理解と、これを守る人たちの共通課題として考えている人たちのみに知ることができ、又見ることができる姿でもあったと思います。勿論文化財に対する市民自覚の高まりの中で地域の主人公として文化財を保存する要求の権利のある人たちの集合体であり、その世論を背景にしつつ、やがて消滅しようとする三塚遺跡に対します袂別の姿とも思われて開発か保存かの矛盾に私自身さいなまれては居りますがしかし圃場整備事業と云う新しい史観に立つ事実の中で文化財を通して正しい歴史を学ぼうとする意欲を証左できることと信じています。残された記録の中で調査成果と併せて圃場事業とが人間生存記録として永久の生命を保ち得るものと思います。調査団の皆々様、並びに東信土地改良事務所、その外関係各位に満腔の謝意を捧げてご挨拶をいたします。

昭和49年3月

## 目 次

序 文	—人間の生存記録として後世に—	佐久市教育長 細 薫 勇 美
<b>I 調 査</b>		5
1. 調査の動機と調査に至る経過		5
2. 調査構成		5
1. 調査委託者		5
2. 調査受託者		5
3. 調査団		5
4. 調査場所		6
5. 調査目的		6
6. 調査日程		6
7. 発掘日誌		6
<b>II 遺跡および遺物</b>		9
1. 遺跡の位置と環境		9
2. 造構および遺物		10
1. 住居址		10
(1)H-1号住居址		10
遺 構		10
遺 物		11
(2)H-2号住居址		11
遺 構		11
遺 物		11
(3)H-3号住居址		12
遺 構		12
遺 物		13
2. 土括状造構		13
(1)D-1号土括状造構		13
遺 構		14
遺 物		14
(2)D-2号土括状造構		14
遺 構		14
遺 物		14
3. 表採、包含層等造構外遺物		14

### III. 発掘調査の成果と問題点

#### 図 版

図版第一	H-1号住居址写真	(1)住居址内疊群 (2)遺物の出土状況
図版第二	H-1号住居址写真	(1)住居址 (2)カマド
図版第三	H-2号住居址写真	(1)住居址 (2)カマド
図版第四	H-3号住居址写真	(1)住居址 (2)カマド
図版第五	D-1 土括状遺構写真	(1)土括状遺構 (2)鉄製小刀の出土状況
図版第六	各遺構出土土器実測図(34)	その1
図版第七	各遺構出土土器実測図(34)	その2
図版第八	各遺構出土土器実測図(34)	その3
図版第九	表採、包含層土器実測図(34)	
図版第十	各遺構出土石器、鐵器類実測図(34)	*No.6, 7, 8のみ34
図版第十一	表採、包含層石器、鐵器類実測図(34)	*No.8のみ34

# I 調査

## 1. 調査の動機と調査に至る経過

昭和48年度県営佐久平（2）地区は場整備事業が開始され、工事中の11月県教委文化課より市教委へ三塚遺跡が破壊されているとの通報があったので調査するよう連絡を受けた。急きよ佐久考古学会員 藤沢平治、土屋長久、白田武正の3氏と市教委 木内捷の4名で精査したところ住居址1軒、それに伴う鬼高式土器片を多量に発見した。

その結果、三塚地籍においては遺跡の破壊は避け難く工事前に調査をし記録保存を行なうよう県教委へ要望した。

12月5日県教委 桐原健指導主事の来市をみ、遺跡現場にて東信土地改良事務所佐久支所北沢氏 土地改良区常任理事 野村氏、佐久考古学会員 藤沢平治、土屋長久両氏、請負者小林建設㈱ 小林氏、市教委より高畠社会教育課長、担当 木内捷の8名で協議の結果、記録保存する事を決定し、現場での発掘作業を1月末日をもって終了させる事、また今回の調査は発掘作業のみとし遺物整理、報告書の作製については49年度に第二次調査として改めて契約する事を条件に、東信土地改良事務所と佐久市教育委員会は12月19日付をもって発掘調査委託契約を締結した。

市教委は調査団構成について、佐久考古学会長 由井茂也氏に依頼し、1月5日佐久考古学会は発掘担当者、団長に藤沢平治氏、調査主任に土屋長久氏を決め1月13日（日）より調査実施することとなった。

## 2. 調査構成

1. 調査委託者	東信土地改良事務所		
2. 調査受託者	佐久市教育委員会		
3. 調査団			
顧問	由井 茂也	県考古学会員	佐久考古学会長
団長	藤沢 平治	〃	佐久考古学会事務局
調査主任	土屋 長久	日本考古学会協会員	佐久考古学会員
参加者	白倉 盛男	県考古学会員	佐久考古学会員
〃	井出 正義	〃	〃
〃	由井 明	〃	〃
〃	白田 武正	〃	〃
〃	高村 博文	〃	〃

参 加 者	武 藤 金	県考古学会員	佐久考古学会員
"	井 上 行 雄	"	"
"	三 石 延 雄	"	"
"	森 泉 好 治	"	"
"	森 泉 定 勝	佐久考古学会員	
"	嵐 山 富 雄	"	
"	青 木 幸 男	"	
調査協力	野沢南高校郷土史研究会		
"	野沢北高校山岳部		
事務局	細 薩 勇 美	佐久市教育委員会 教育長	
"	萩 原 卓 治	"	教育次長
"	高 烟 五 男	"	社会教育課長
"	桜 井 長 夫	"	" 係長
"	木 内 捷	"	" 係

#### 4. 調査場所

佐久市大字三塚字東野沢田477の1番地

#### 5. 調査目的

県営ほ場整備工事が行なわれ、遺跡が破壊されるので工事前に緊急調査を実施し記録保存する。

#### 6. 調査日程

昭和49年1月8日	ブルドーザーによる表土削平
" 1月13日	調査団結団式及び打ち合せ会
" 1月13日～24日	発掘作業
" 1月25日～26日	実測作業

#### 7. 発掘日誌

1月13日（日）晴れ

器材の搬入及びグリットの設定をする。土が凍結しているため、杭打ちがはからず基準杭以外は石灰によるグリット設定となる。予め耕作土はブルドーザーで20cm削平してあり、F-2～8地区を30cmほど掘下げる。土師器小破片が各地区から出土。



発掘風景

1月14日（月）快晴

E-2、3、G-2、3グリットを拡張し、D-1号土括状造構のプラン検出作業を行なう。

1月15日（火）晴れ

F・G・H-1グリットを拡張、H-1グリットは30cmの深さで礫面となる。D-1号土括の覆土掘り下げ作業開始。F-3、4グリットに1m巾のサブトレーナーを入れたところ落ち込みらしきものを確認する。



1月16日（水）快晴

D-1号土括の覆土中より鉄製小刀と古銭（明道元宝）が出土、D-4、5、E-4、5、G-4グリットの掘り下げ作業を開始する。



1月17日（木）うす曇り

D-3、4、E-4、5を50cmほど掘り下げたところ黒色土の落ち込みを確認し、プランを追求する。落ち込みは、ほぼ方形をなしH-1号住居址とする。



1月18日（木）晴れ

H-1号址のプラン検出作業を終了し、覆土の掘り下げを開始する。床面近くになり、プラン内全域にわたり、拳大～人頭大の礫群が存在し、礫面より骨片（粉）、炭化物、焼土等が多量に出土する。落ち込みの北側、C-5グリット内には、カマドらしい焼土が存在する。

1月19日（金）晴れ

H-1号址内の礫群の清掃、写真撮影を行ない。

上・中・下 発掘風景

遺物を取り上げる。H、I-8グリットより黒色の落ち込みを確認、周辺のグリットを拡張する作業を開始する。

1月21日（日）曇り後雪

H-1号址の礫群実測のため水糸を張り実測作業を開始する。午前11時ごろより雪が散らつく。G-H、I-5、6.7グリットを中心にブルドーザーによる凍結土の削平を行なう。それらのグリット内より落ち込みが確認され、住居址2軒、土括1基のプランを検出する。

1月22日（月）晴れ 休み

1月23日（火）うす曇り

H-1号址櫻群の実測作業を続行。更に21日確認された2軒の住居址は切り合い関係にあり、新しい時期の住居址をH-2号住居址、古い時期の住居址をH-3号住居址とする。

切り合い関係においては、H-2号址の覆土が褐色で、H-3号址では黒色土であったことから上面よりはっきりと確認できた。



1月24日（水）快晴

H-1号址、櫻群の実測及び除去を終了し、床面の清掃と柱穴の検出作業を行なう。

H-2号址は床面の清掃作業を行ない写真撮影をする。



1月25日（木）晴れ

H-1号址の写真撮影、H-3号址、D-2号土括の調査を行なう。また遺跡全体の実測作業を開始する。



1月26日（金）快晴

H-1号址、H-3号址のカマドを精査し、写真及び実測を行なう。

H-1号址のカマドは砂岩を主体としたものであり、一方H-3号址は多量の土器片を芯にして構築したカマドであった。

遺跡全体図を撮りおわり、本日をもって予定の作業を終了し器材を撤収する。

上、H-1号址 炭化物出土状態

中、H-2号址 鉄器出土状態

下、H-2号址 四石出土状態

## II 遺跡および遺物

### 1. 遺跡の位置と環境

本遺跡は佐久市大字三塚区の南に接する三塚字東野沢田477-1番地に所在する。本遺跡西方約750mに片貝川が南より北に流れ、また東方約1,500mには千曲川が同方向に流れている。この両川の間には微高地が形成されおり、白田町方面より野沢中学校をとおり、さらに本遺跡から北に続いている。三塚遺跡はその微高地の最高部に位置し、標高669.7mを計る。

本遺跡の所在する三塚地籍は、西方に泉小学校遺跡、鶴田遺跡、北に三千束遺跡、市道遺跡、南西部に中道遺跡が登録されており、更に野沢地域、桜井、岸野、前山、跡部の各地域、特に片貝川流域は弥生時代から古墳時代（和泉斯ごろ）より終末期（国分期）に至る集落が存在することは、表採及び既出資料によって明らかであり、今回の調査地はこの地域の一地点である。



三塚遺跡分布図 1/50000

## 2. 遺構および遺物

調査地に  $3 \times 3 =$  グリットを南北に A ~ K、東西に 0 ~ 10 の 121 グリットを設定し、C - 4, 5, D - 3, 4, 5, 6, E - 2, 3, 4, 5, 6, F - 0, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, G - 0, 1, 2, 3, 4, 7, 8, 9, H - 1, 2, 7, 8, 9, I - 7, 8, 9, 10, J - 1, 8, 9, 10 の 40G, 360m<sup>2</sup> をグリット法による平面発掘調査を行なった。

### 1. 住居址

#### (1) H - 1 号住居址

##### 遺構

本住居址は、D - 1 号柱状遺構プラン追求のおり発見され、D, E, F - 3, 4, 5, G - 4 グリット内より検出された遺構である。東西南北、壁ははっきりと確認でき、ただ西壁のほんの一部が D - 1 号土柱状遺構に切られているのみである。

又本遺構には、床面よりちょっと浮いた面で、プラン内全域にわたり拳大～頑大の砾群が存在し、焼土、炭火物などが混入した状態で検出された。

##### ● 平面プラン

東西、南北両辺とも  $7 \times 20 \sim 30\text{cm}$  で角が角張ったほぼ正方形であり、主軸方向は N - 27° - W を計る。

##### ● 壁

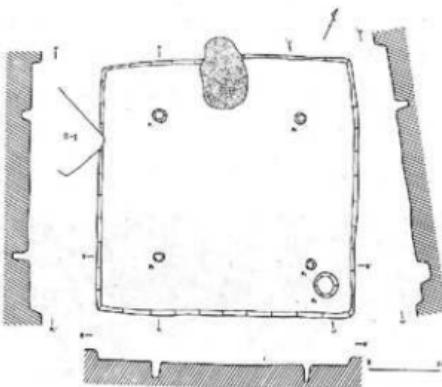
ほぼ垂直な状態で落ち込んでおり、東、西、南、北壁とも検出面から  $20 \sim 30\text{cm}$  の高さである。

##### ● 床面

全面ほぼ水平で、かたくふみこまれた状態であり、4隅に 1 づつの Pit と東南隅にさらに 1 つの計 5 ヶの Pit が存在した。P<sub>1</sub> ~ P<sub>4</sub> は位置、平面プラン、深さから主柱穴と思われ、P<sub>5</sub> の性格は不明。

##### ● カマド

本住居址のカマドは、北壁のはば中央に構築されていたと思われる。カマドの構築の方法については、ほとんど破壊された状態で出土したため、はっきりしたことはつかめないが、方形に加工



第 1 図 H - 1 号住居址実測図 (1 : 160)

されたかなりかたい砂岩が存在していることから、この砂岩を芯に構築されていたものではないかと推定する。

#### 遺物

土師器 カメ、ツボ、コシキ、ワン、マリ、ツキ

須恵器 カメ、ツキ、ツボ

その他 磐石製白玉（1）、木器、骨片、骨粉齒、土製丸玉

#### (2) H-2号住居址

#### 遺構

本住居址は、I・J-8・9

9グリットより検出され、

H-3号住居址と重複関係

にある。H-2号址の覆土

は茶褐色で、H-3号址は

黒色であることから上面よ

り明らかに地層がわかれ本

住居址がH-3号址を切っ

ていることが確認できた。

##### ●平面プラン

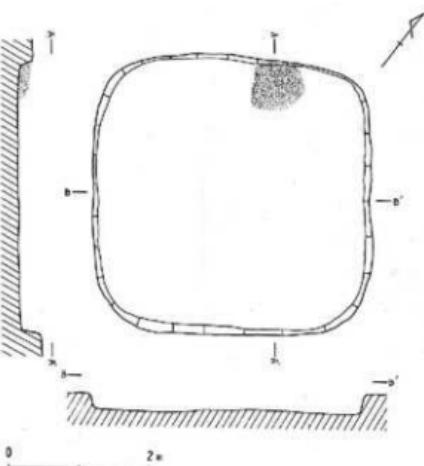
東西、南北両辺とも3=

80~90cmで概丸方形のプ

ランをなし、主軸方向は

N-39°-Wを計る。

##### ●壁



第2図 H-2号住居址 実測図 (1:80)

ややなだらかな状態で落ち込んでおり、東、西、南、北壁とも検出面から24~30cmの高さにある

##### ●床面

ほぼ水平、Pitなし

##### ●カマド

焼土が北壁の東よりに存在し、これを本住居址のカマドと推定するわけであるが、構築状況はまったくつかめない。

#### 遺物

土師器 カメ、ツキ

須恵器 カメ

その他 凹石、刀子、骨片

(3) H-3号住居址

造構

本住居址は、H-2号址より古く、覆土上部と東壁の一部は切られているが、H-2号址より壁が深いので床面には影響なかった。本遺跡での位置は、H・H・J-7、8、9グリット内にあり、南壁のみ、道路、電柱と隣接するため確認できなかつた。

●平面プラン

南壁が確認できず推測であ

るが、東西6

=5cm、南北6=50cm以上という南北に長い、角のややまるまつた長方形をなすものと思われる。

主軸方向はN-6°-Wを計る。

●壁

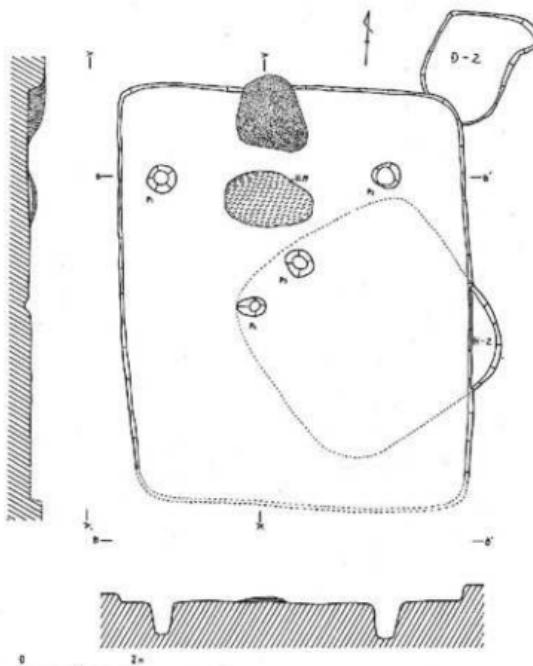
ほぼ垂直に落ち込み、検出面から14~30cmの高さにある。

●床面

ほぼ水平であり、カマドより南側に灰層が存在した。Pitは4ヶあり、そのうちP<sub>1</sub>、P<sub>2</sub>については、位置、平面プラン、深さより主柱穴とみられるがP<sub>3</sub>、P<sub>4</sub>については性格不明。

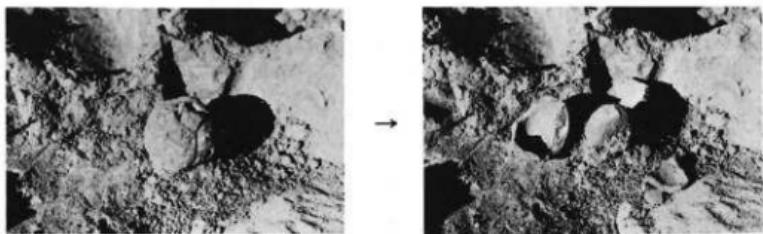
●カマド

本遺構のカマドは、北壁のほとんど中央部に存在し、土器片を芯に構築した佐久平では珍らしい構築技法である。又支脚石についても土器（カメ）がかぶせてあり、石のみにては煮沸用カメを



第3図 H-3号住居址実測図(1:100)

上にのせた時、こわれやすいのであるが、これを防ぐような意味あいを相起させこの支脚石も珍らしい出土である。



#### 遺 物

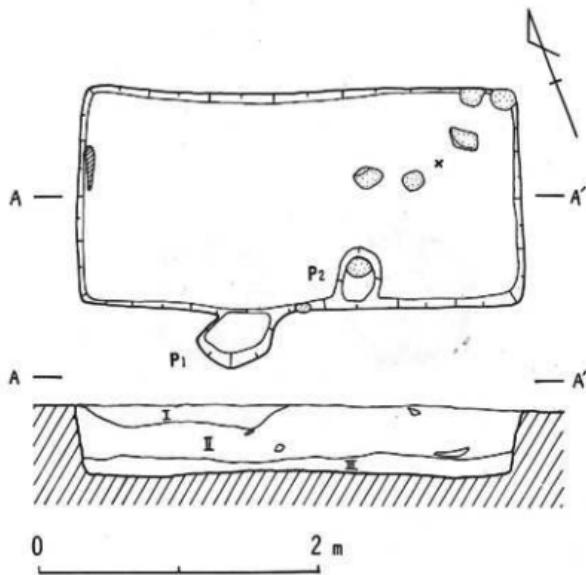
土師器 カメ、小形手捏

須恵器 ハソウ片

その他 凹石、砥石（2）

## 2. 土括状遺構

### (1) A-1号土括状遺構



### 遺構

本遺跡、最初に発見された遺構であり、E-2、3グリット内に位置する。平面プランは南北1m 60cm、東西3m 20cmの東西に長い角張った長方形をなし、長軸方向はN-68°-Wを計る。H-1号住居址の東壁を切って存在し、住居址廃絶後、営なまれたことは明確である。次に記す出土遺物から考えて墳墓としての性格をもつものであろう。

### 遺物

土師器片少量、古銭（明道元宝） 鉄製小刀 骨片

#### (3) D-2号土塁状遺構

### 遺構

本遺構は、H-3号住居址に切られており、住居址以前に作られたものであることがわかる、平面プランはD-1号土塁と異なり不整形で、H-9グリット内に位置する。出土遺物はまったくなく本遺構の性格はつかめない。

### 遺物

なし

## 3. 表採、包含層等遺構外遺物

縄文後期土器片少量、弥生後期土器片少量、土師、須恵器片、かわらけ、古銭（祥符通宝、至和通宝）、滑石製紡錘車、砾石、鉄鎌



### III 発掘調査の成果と問題点

本遺跡の位置する地域は、自然環境から考えて、西方の山麓地帯から流出する水は片貝川をはさむ低地をうるおし農耕地として治水技術の発達しない時代から充分に利用され、佐久地方における数少ない水田地帯として重視された所であろう。

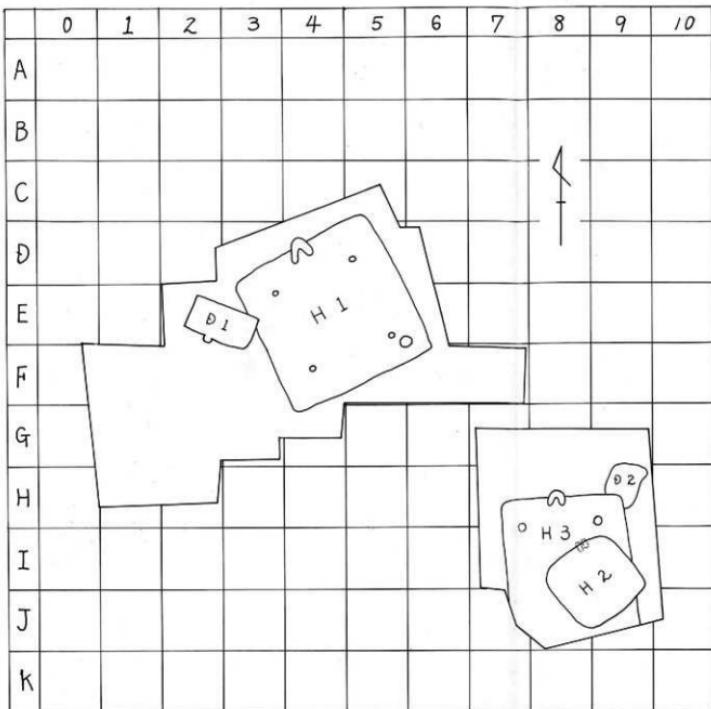
遺跡の位置と環境で記したように、本遺跡は三塚地域に広がる、少なくとも和泉期より国分期にいたる集落の一部と考えられる。今回の調査により3住居址ならびに2土括状遺構が検出された。これらの遺構および遺物から、その時代考察をすれば、H-3号住居址は、南壁を道路等との関係により検出することができないが、図版第七のNo33-39の手捏土器、同図版No47、図版第八のNo48-74のうちの土師カメ等の器形からみて、鬼高窓の前半に属するものと考える。H-1号住居址も図版第六のツキ、カメ等からH-3号址とは同時期に位置するものと考えられる。H-2号住居址は、遺構および遺物でふれたようにH-3号址の廃絶後営なまれたものであり、他の2住居址に比して平面規模も小形化し、図版第七のNo28-29のフタ、No30の高台付ツキ等から国分期の住居址と考えられる。D-2号土括状遺構はH-3号址がこの1部を切って営なまれていることから考えて本遺跡、検出遺構中もっとも古く位置するものと考えられるが遺構に伴なう出土遺物がなく、その性格とともに時期決定する資料を欠く。D-1号土括状遺構は、H-1号址、廃絶後営なまれたことは明確であり、伴出その他遺物からみて国分期から中世初頭に位置するものと考えられる。

次に2土括の性格を考えるとD-1号土括は覆土堆積状態が上部を除き、人為堆積であり、小刀鉄クギ(角)、骨片等から墳墓(土括墓)と考えることができる。D-2号土括状遺構については覆土の堆積状態からD-1号土括に近い性格を持つものと考えたいが、伴出遺物がなく断定することができない。しかし少なくとも切り合ひ関係からみてH-3号址にともなう遺構ではない。

今回の調査は小規模であるが、H-1号址よりコシキ、カメ、高ツキおよびツキの検出をみ、当時における生活用具のセットを知ることができるし、又住居址内よりの玉類、手捏土器等の出土は日常生活用具とは別な性格をもった文化的要素追求の手掛りともなろう。

上記のように三塚全域にわたる集落遺跡のはんの一部でしかない今回の調査地のみでは、当時の人々の集落構造および社会生活、それとともに精神文化を明らかにすることは困難である。又本地域には、古い地名と考えられる、下郷、跡部等の名称が付近に存在し、農耕地としても、古くから最も適した地域である。これらのことから考えて本地域はたんに佐久平のみではなく、古代における最重要な場所であったろう。

本遺跡を含めた三塚地域の歴史的位置を考える時、は場整備にともなう大きな遺跡破壊はまことにおしまれることである。



第5図 三塚遺跡全遺構図(1/200)



1. 住居址内礫群



2. 遺物の出土状況



1. 住居址



2. カマド



1. 住居址



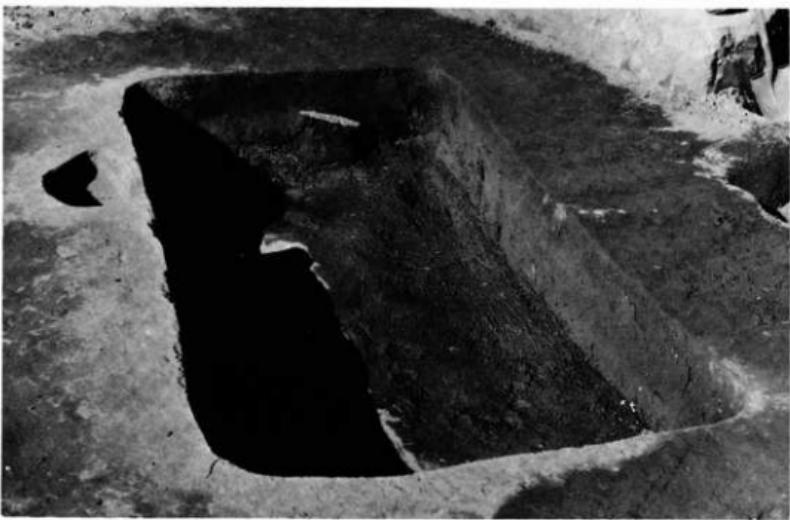
2. カヤド



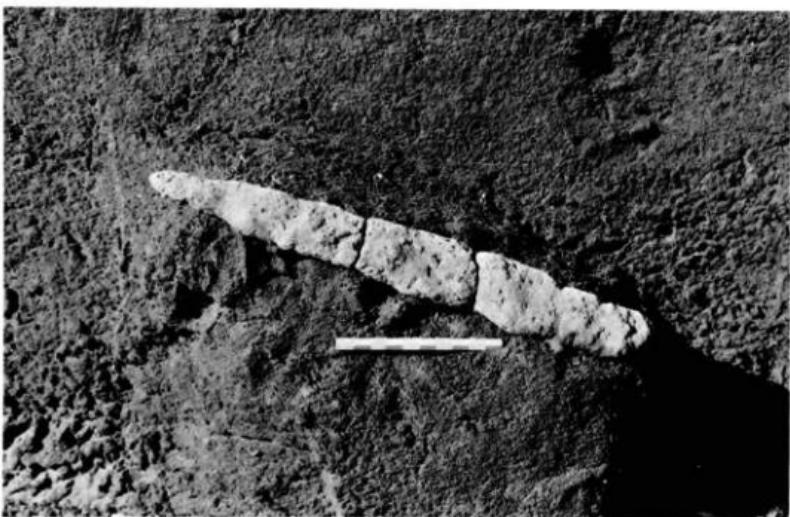
1. 住居址



2. カマド

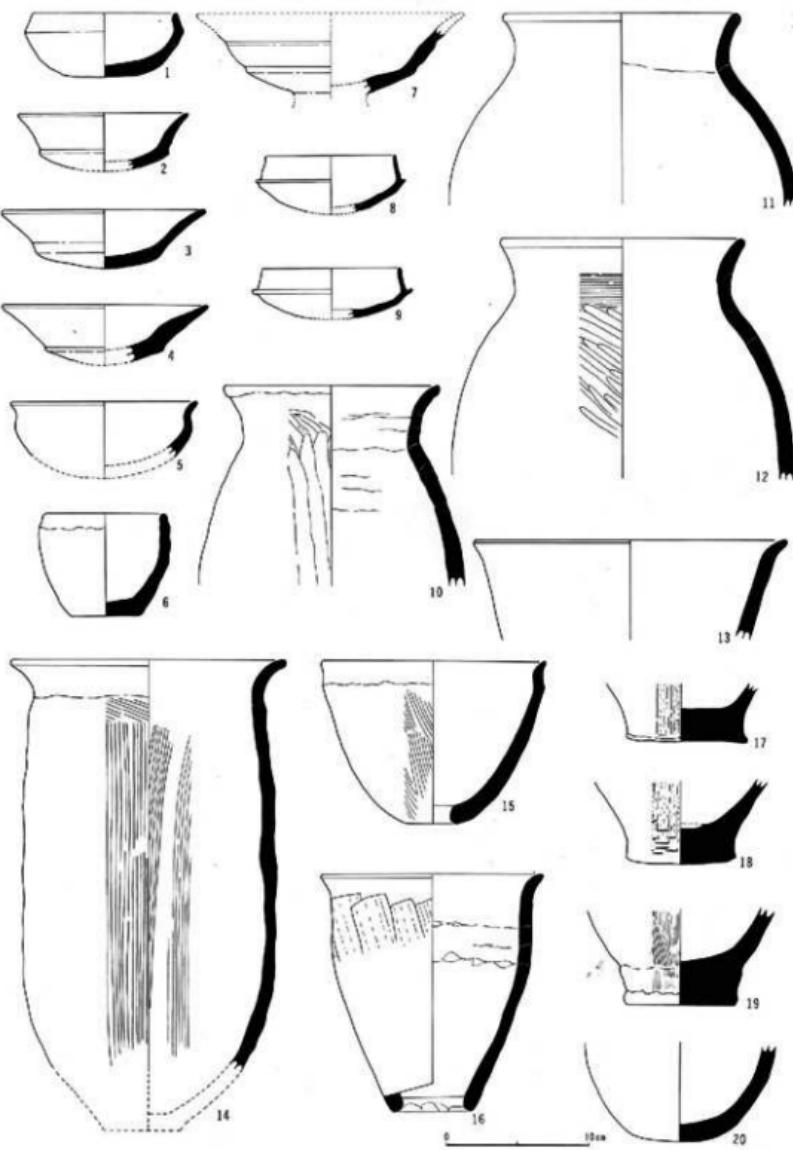


1. 土括状遺構

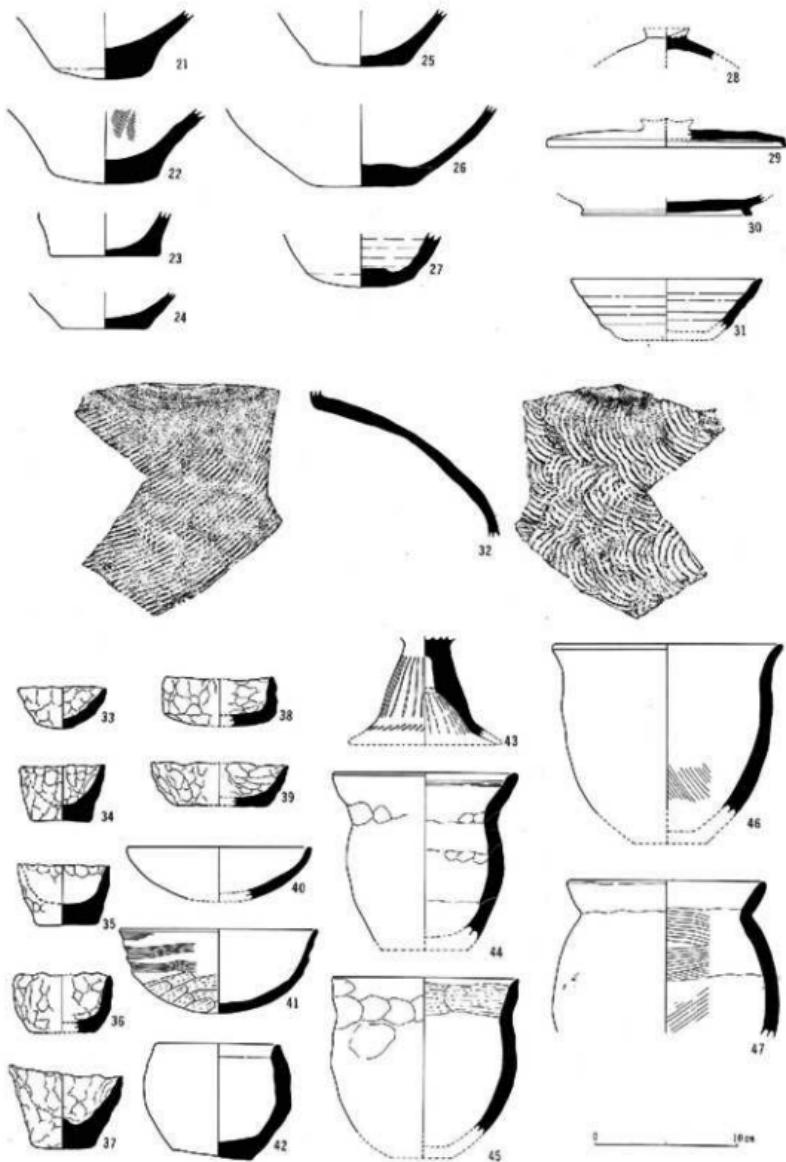


2. 鉄製小刀の出土状況

図版第六 各遺構出土土器実測図 (1/4) その1

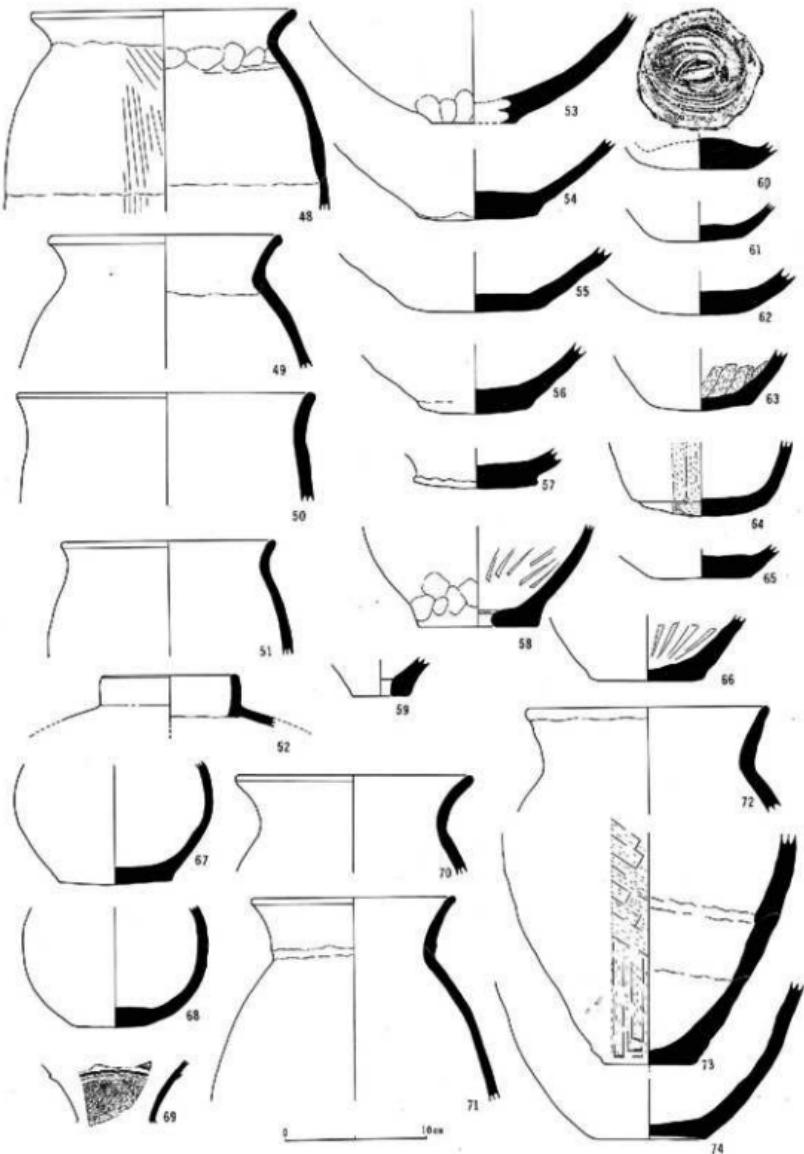


1~20 (H-1号住居址)

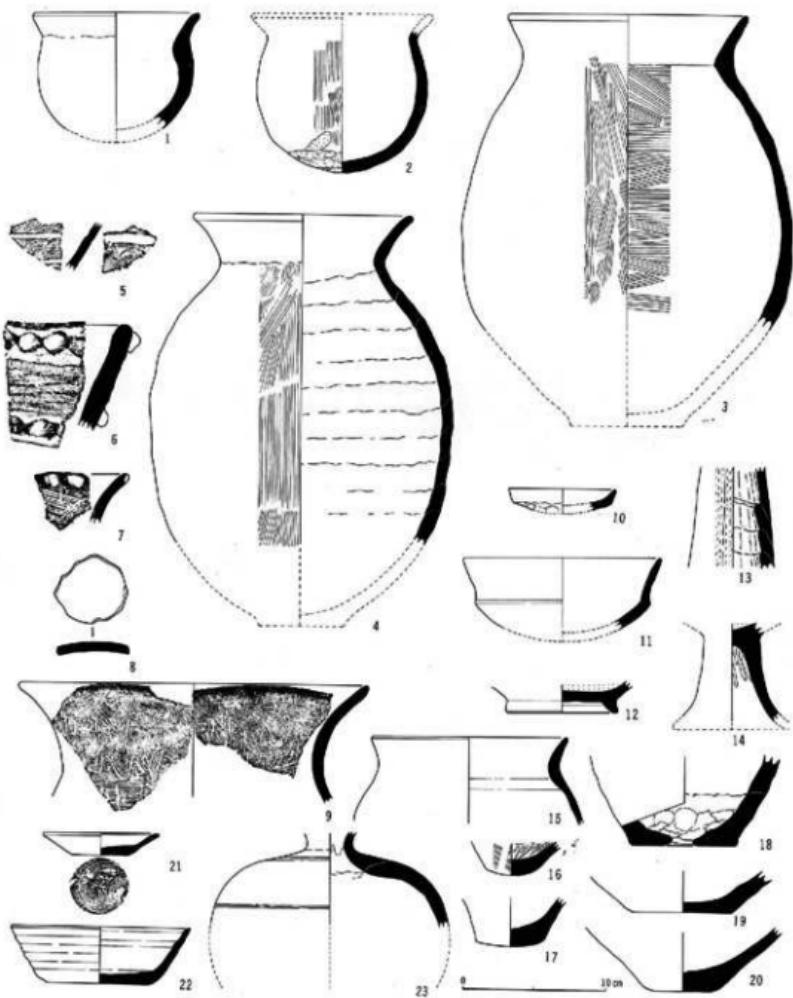


21~27 (H-1号住居址), 28~32 (H-2号住居址)  
33~47 (H-3号住居址)

図版第八 各遺構出土土器実測図 (1/4) その3

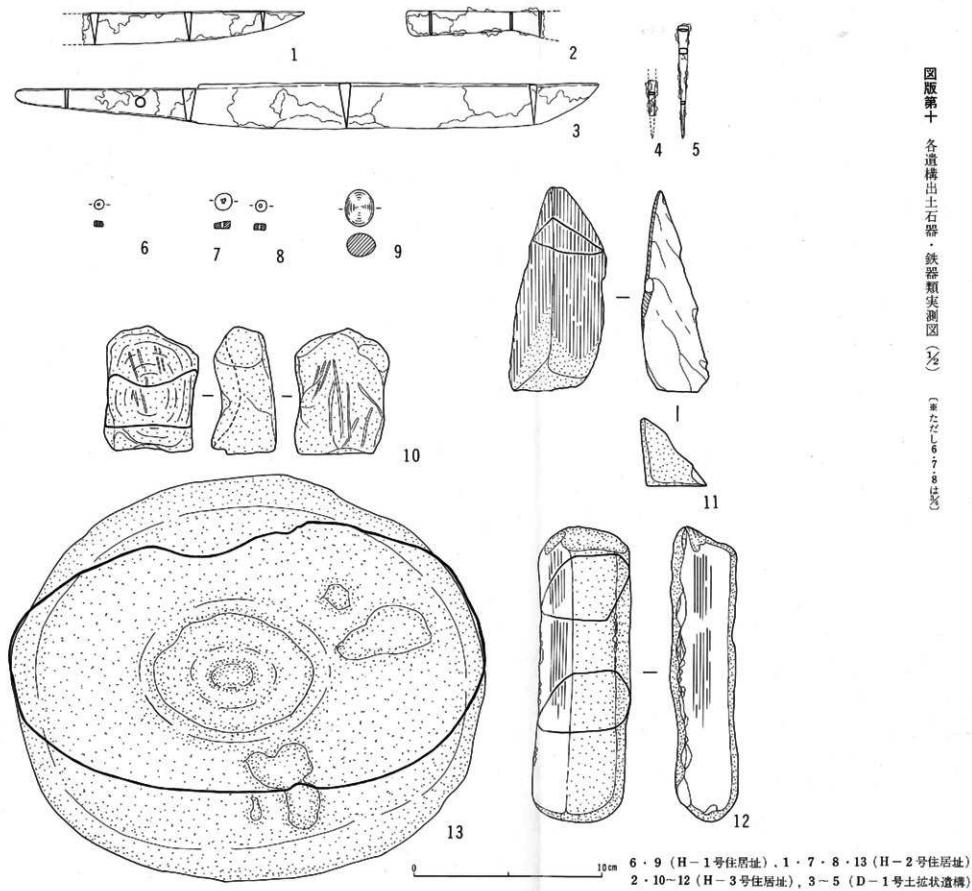


48~74 (H-3号住居址)



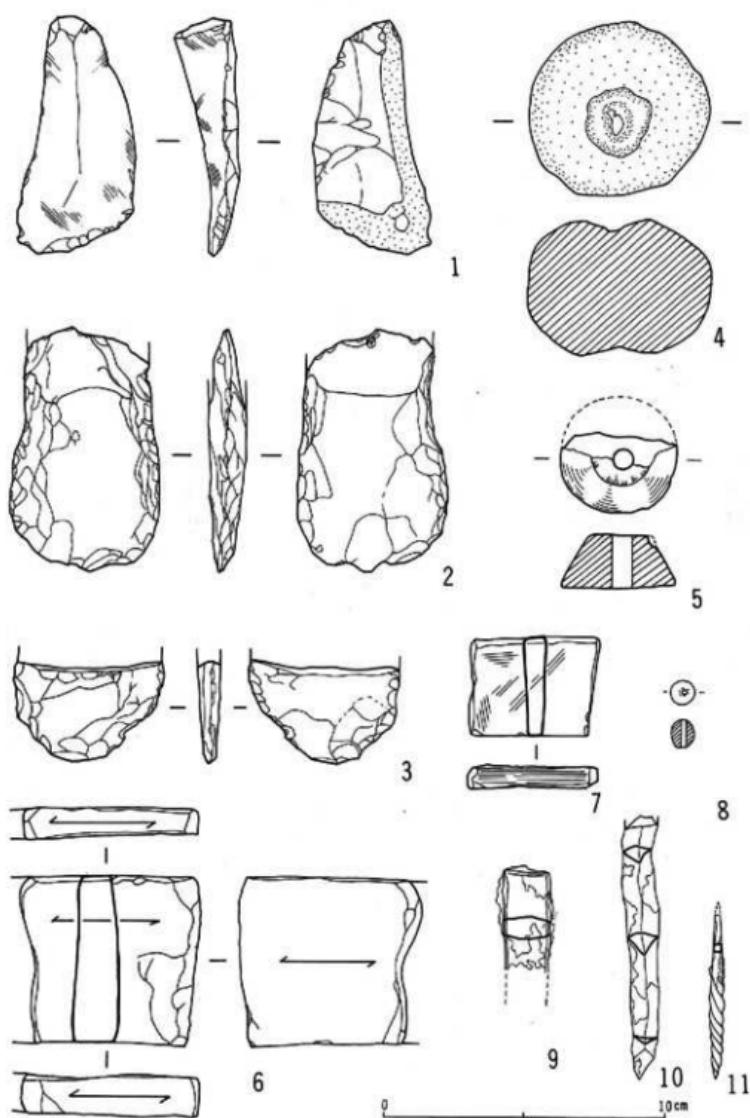
1 ~ 7 (表採), 8 ~ 23 (包含層)

(※ただし6・7・8は鉄)



図版第十一 表採・包含層石器・鉄器類実測図 (1/2)

(東ただしは2)



1～3 (表採), 4～11 (包含層)

# 三 塚

佐久市三塚遺跡（昭和49年度）緊急発掘調査報告

昭和50年3月15日印刷

昭和50年3月25日発行

著者 三塚遺跡発掘調査団

発行者 佐久市教育委員会

印刷所 佐 久 印 刷 所

〔非売品〕